

エポキシシランを利用する新規合成反応の開発 Development of New Synthetic Reactions Using Epoxysilanes

○武田 敬¹(¹広島大院医歯薬)

エポキシドを強塩基で処理することによるアリルアルコールの生成は、比較的古くから知られており、最近ではキラルな塩基を用いる不斉反応などにも拡張されている。われわれは、エポキシドの α 位にシリル基を持つエポキシシラン **1** の塩基処理、あるいはアシルシラン **2** と求核剤との反応によって発生するカルバニオン **3** を鍵中間体とし、**4** の Brook 転位を経て生成するエノールシリルエーテル誘導体 **5** を経て **6-11** のような化合物の合成が可能な新規反応の開発に成功した。本講演では、結果だけではなく、反応開発に至った経緯に焦点を絞り、不成功に終わった反応などについても述べる予定である。

